

## 正しい安息日の守り

主要聖句：「イエスは彼らに言われた。『安息日は人のために設けられたのであり、人が安息日のために設けられたのではない。それゆえ、人の子は安息日の主でもある。』」  
マルコによる福音書 2:27,28

選読箇所：  
マルコによる福音書 2章23-28節

神がイスラエルに与えられた第四の戒めは、次のとおりであった。「安息日を覚えて、それを聖なるものとしなさい。……その日には、いかなる仕事もしてはならない。」（出エジプト記20:8-11）。神はこの戒めの意味を次のように説明された。「これは、あなたがたの代々にわたって、わたしとあなたがたとの間のしるしである。あなたがたが、わたしがあなたがたを聖別する主であることを知るためである。」出エジプト記31:13,14

神は預言者イザヤを通して、この戒めのより深い意味を次のように明らかにされました。「もしあなたが安息日を喜びとし、主の聖なる日を尊いものと見なし、自分の道を行かず、自分の快樂を求めず、むなしい言葉を語らないことでそれを尊ぶなら、あなたは主を喜ぶことになる。」イザヤ書 58:13,14

毎週この一日の休息の目的は、単に肉体の安息のためだけではなく、預言者イザヤを通して説明されているように、神について思いを巡らせ、喜び

をもって神を敬う日となることでした。イエスや使徒たちは、教会に対して安息日に関する戒めを何も与えませんでした。パウロが書いたように、「あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるのです。」ローマ人への手紙 6:14,15

しかし、イエスの初臨の頃、多くのユダヤ教の指導者たちは形式主義者となり、戒めの深い意味よりも文字通りの規定を重視するようになっていた。この出来事において、ファリサイ派の人々は、イエスの弟子たちが麦畑を通りかかった際、空腹だったため、手にした麦の穂をこすり合わせて食べたことを理由に、安息日違反であると非難した。ルカ6:1,2

イエスは安息日の戒めを破ったわけでも、他のユダヤ人にそうするよう教えたわけでもありません。イエスはユダヤ人であり、安息日を守る義務がありました。しかし、神の戒めに対する理不尽な誤った解釈には反対されました。その結果、イエスはこの箇所、「安息日は人のために設けられた」と説明されたのです。

「安息日」という言葉は、休息を意味します。別の箇所、パウロは「私たち信じる者は、その安息に入るのである」（ヘブル人への手紙4章3節）と記しています。それは、ユダヤ人の文字通りの肉体的な休息ではなく、主への信仰と信頼による休息なのです。使徒は続けてこう言います。「それゆえ、神の民には、まだ安息が残されています。神がご自身のわざを休まれたように、その安息に入った者は、自分のわざも休んだのです。ですから、だれも不信仰の同じ例に倣って倒れること

のないように、その安息に入るために努めましょう。」へブル人への手紙 4:9-11

一見すると、「安息に入る」ために「努力する」というのは矛盾しているように聞こえるかもしれませんが。しかし、この勧めに重要な真理が示されています。この安息とは、神への完全な信仰と神への依存を育むために日々努力することによって入るものです。それは、知識、確信、そして従順に基づいた、神の約束への完全な信頼による安息です。御子イエス・キリスト（ ）を通して神と結ばれている関係ゆえに、私たちはこの安息の中に霊的な力を見出すのです。

そのような安息は、神と神のすべての約束に対する私たちの信仰の度合いに比例するものです。したがって、主に従う者にとって、毎日が安息日、すなわち休息の日であるべきです。それは、私たちのすべての思い、言葉、行いにおいて、喜びをもって主を思い巡らし、主を尊ぶという意味でも、そうであるべきなのです。